



2017年 12月

株主通信 セコム株式会社

第57期中間報告書

[2017年4月1日から
2017年9月30日まで]

社会の生産性向上に貢献し、 社会からの信頼、 さらには企業価値を向上させる

「セコムグループ 2030 年ビジョン」の反響、
新型ホームセキュリティ、移動式モニタリン
グ拠点、(株)TMJのセコムグループ入りにつ
いて、社長の中山泰男からご説明させていた
だきます。



中山 泰男

セコム株式会社 代表取締役社長

今年5月に発表した 「セコムグループ2030年ビジョン」の 反響について

「セコムグループ2030年ビジョン」で示す「あんしんプラ
ットフォーム」構想については、さまざまな企業のトップの方々
から共感いただき、実際にお会いして意見交換をする機会も
多くいただいております。

そうした中から想いを共にするパートナーの方々と、「あん
しんプラットフォーム」構想の実現につながるサービスも実
際に生まれています。

「セコム・ホームセキュリティNEO」と 「セコム・マイドクターウォッチ」について

防犯だけではなく健康、家族や離れて暮らす親御さんの見
守りなど、「安全・安心」に対するニーズは多様化・高度化し
ています。そこで、セコムが守りたいと願うのはそれぞれの
“大切なもの”である、という想いを込め、「セコム・ホーム
セキュリティNEO」のキャッチフレーズを「あなたの『大切』
を、セコムする。」としました。

「セコム・ホームセキュリティNEO」では、スマートフォン
でセキュリティの操作や状態の確認ができ、例えば外出先で

お子さまのご帰宅を知ることもできるので、ご家族のつながりも深めていきます。また、コントローラーを小型卓上型にし、置き場所を生活スタイルにあわせて自由に変えられる点も高い評価をいただいています。

さらに、さまざまなIoT機器と接続することで、つながる安心を増やしていけるのも特長で、その第一弾が「セコム・マイドクターウォッチ」です。これはリストバンド型のウェアラブル端末を使った健康管理と救急対応サービスです。健康管理で使用するスマートフォンアプリ「セコムあんしん健康アプリ」は、(株)日立製作所との提携により生まれたもので「あんしんプラットフォーム」構想で掲げる“共想”が実現した例です。

被災地支援と大規模イベント警備対応を目的に開発した車両型「オンサイトセンター」について

今年9月、東京都渋谷区にある代々木公園で開催された「SHIBUYA BOSAI FES」に昨年に続き特別協賛し、セコムブースで展示したもののなかで特に注目を集めたのが車両型の「オンサイトセンター」（移動式モニタリング拠点）でした。

これは、大規模イベントの警備の際、「セコム飛行船」や「セコム気球」、ウェアラブルカメラ、仮設カメラなどからの映像をイベント会場に近い監視センターに集約し、リアルタイムな状況把握や現場指揮に活用したところ、大きな効力を発揮したため、災害発生現場でも使用できるように監視センターの機能を車両に搭載したものです。

車両の内部には、カメラ映像などさまざまな情報を表示するモニターを設置し、広域災害の被災地に入って情報収集や状況確認を行い、それらの情報を避難所や災害対策本部に提供するなどして、被災地支援に活用していきます。

もちろん、大規模イベントの警備においても機動性を活かした現地指揮拠点として活用していく予定で、すでにスポーツイベントの警備で試験運用を行いました。

(株)TMJのセコムグループ入りについて

セコムには、セコム・コントロールセンターやお客様サービスセンターなどお客様との接点となるセンターがあり、さらに一部のお客様には施設の設備保守やマンション管理の代行業務などを提供するなど、コンタクトセンターのインフラとノウハウを有しています。

昨今の企業の人手不足を背景にアウトソーシングへのニーズが高まっています。それを受けて、セコムはセキュアなビジネスサポート業務をさらに拡大する方針を打ち出しており、この度(株)TMJがセコムグループ入りすることとなりました。

TMJは幅広い業界・業種の企業に、コンタクトセンター業務を含む高品質なBPO*業務を提供しており、そこにセコムの強みが増えることで、拡大する市場ニーズに幅広く対応していきます。

最後に、株主の皆様へ

「あんしんプラットフォーム」の特徴の中で掲げる「セコムのあんしんフロー」により、事前の備え、事態の把握、被害の最小化、事後の復旧まで、切れ目なくサービスを提供し、社会の流れ、生活の流れを止めないこと。さらには高まるアウトソーシングへのニーズに応え、企業がコア業務に専念できる環境を作ることで、社会の生産性向上に貢献してまいります。

そして、そうした取り組みを通じて社会からのセコムへの信頼を一段と高めることで、企業価値の向上を図ってまいります。

引き続き、私たちセコムグループにご期待・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*BPO (Business Process Outsourcing)：効率化、生産性の向上などを目的として、コンタクトセンターやデータ入力など、企業の社内業務を外部に委託すること。

進化し続ける新しいホームセキュリティ 「セコム・ホームセキュリティNEO」を販売開始

セコムは7月、新型ホームセキュリティ「セコム・ホームセキュリティNEO（ネオ）」（以下、「NEO」）を販売開始しました。

1981年に国内初のホームセキュリティの販売を開始したセコムは、お客様のニーズや社会的課題に先んじて「安全・安心」を提供するさまざまなサービス・商品を提供してきました。

「NEO」では、セキュリティの操作や状態を表示するコントローラーを小型卓上型にし、生活スタイルやその変化に応じて、お客様ご自身で置き場所を自由に変えて、快適・便利にお使いいただけます。

さらに、「セコム・ホームセキュリティアプリ」を使用することで、スマートフォンでご自宅のセキュリティ状態の確認ができるほか、セキュリティ操作ができます。



新型ホームセキュリティ
「セコム・ホームセキュリティNEO」

また、従来のホームセキュリティの基本サービスである防犯、火災監視、非常通報や、オプションサービスの救急通報、ガス漏れ監視、安否見守りに加え、健康管理・救急対応サービス「セコム・マイドクターウォッチ」などIoT機器と連携したサービスが利用可能です。

このサービス拡張性を活かし、「セコム・ホームセキュリティNEO」がこれからも進化し続けることで、さらなる「安全・安心・快適・便利」を提供していきます。

日本初、被災地支援や大規模イベント警備に対応する オンサイトセンター（移動式モニタリング拠点）を開発

セコムは8月、被災地支援や大規模イベント警備において、機動力を活かしたリアルタイムな情報収集・情報提供・現場指揮を可能にする車両型の「オンサイトセンター」（移動式モニタリング拠点）を開発しました。

オンサイトセンターは、被災地支援を行うために、これまで培ってきた技術力・ノウハウをもとにセコムが独自に開発したものです。

車両内部には、仮設カメラやウェアラブルカメラ、車載カメラの映像など、さまざまな情報を表示するモニタリング画面を搭載。広域災害の被災地に入り、避難所や災害対策本部で求められるセキュリティニーズに基づき、情報収集や状況確認を行います。そして、それらの情報を避難所・災害対策本部にリアルタイムに提供するなどして、被災地支援を展開していきます。

また、大規模スポーツイベントや国際会議の警備において、高精度な3次元立体地図で警備計画の立案を支援する「セコム3Dセキュリティプランニング」や「セコム飛行船」、ウェアラブルカメラなどのセキュリティシステムとオンサイトセンターを連携させることで、機動力を活かした現場指揮拠点として活用していきます。

これからもセコムでは、被災地支援や大規模イベント警備における取り組みをさらに加速させ、社会に「安全・安心」を提供していきます。



民間防犯用として日本初となる「オンサイトセンター」（移動式モニタリング拠点）

(株)TMJがセコムグループ入り BPO業務の新規サービス創出・拡充を目指す

セコムは10月、コンタクトセンター業務を含む、高品質なBPOサービスを提供する(株)TMJの全株式を取得。これによりTMJがセコムグループ入りしました。

セコムでは、「セコムグループ2030年ビジョン」のもと、きめ細やかな切れ目のない安心を提供する施策のひとつとして、セキュアなビジネスサポート業務の拡大方針を打ち出しています。

一方、TMJはコンタクトセンター業務やバックオフィス業務全般のBPOサービスを金融、情報通信、製造、流通、官公庁など幅広い業種・業態に提供。業界最長クラスの業務経験と最新の科学的・工学的アプローチを活かし、生産性向上や業務効率化に貢献する企画、設計、運用を行っています。

今回のTMJのグループ入りにより、これらの分野で培った幅広い経験および蓄積されたノウハウなどをセコムでも活用できるようになり、セキュアなビジネスサポート業務の拡大をさらに前進させることができます。

今後は、両社でさまざまな相乗効果を生み出すことで、BPOサービスに関する新規サービスの創出・拡充を図り、お客様にさらなる高品質なサービスを提供していきます。



(株)TMJのコンタクトセンター

(株)NTTドコモとLPWA通信を活用した AED遠隔モニタリングサービスの実証実験を開始

セコムは9月、省電力広域無線通信技術「Low Power Wide Area」(以下、LPWA)通信を活用した「AEDオンライン管理サービス」の運用開始を目指し、(株)NTTドコモと共同で実証実験を開始しました。

LPWAは、広域エリアのデータ通信を低消費電力で実現する無線通信技術で、多様・大量の機器間で少量のデータ通信を行うのに適したIoT時代の通信技術のひとつとして注目を集めています。

セコムが2010年から提供している「AEDオンライン管理サービス」は、AEDの機器異常や消耗品の期限切れ、持出しなどを24時間365日モニタリングするものです。従来この



実証実験で使用した
AEDと自立型ボックス

サービスの利用には商用電源の確保が必要ですが、省電力という特性を持つLPWA通信を使用することで、バッテリーのみで動作が可能になります。今後、電源のない場所にあるAEDにも同サービスを提供し、より多くのAEDがいつでも安心して使える環境を実現していきます。

実験では、NTTドコモが提供するLPWA実証実験環境を利用し、遠隔地や屋外、高層ビルなどさまざまな設置環境下にあるAEDの状態を遠隔で監視・管理し、サービスの実現可能性について検証を行います。

また今後は、セコムが全国に販売した約18万台(2017年9月末)のAEDや、さまざまなセキュリティ商品へのLPWA通信機能の実装・IoT化にも取り組んでいきます。

「セコムドローン」が海外で初飛行 台湾・世界情報技術産業会議の平行イベントで公開

台湾にあるセコムグループの中興保全股份有限公司（以下、中興保全）は9月、「2017年 世界情報技術産業会議」（以下、WCIT 2017）の平行イベントで、自律型小型飛行監視ロボット「セコムドローン」の海外初となるデモンストレーション飛行を実施しました。

WCITは、IT産業の応用と発展の促進を目的とする国際会議です。今回、同会議の平行イベントが行われた



デモンストレーション飛行する「セコムドローン」

施設「TAF イノベーションベース」は、若者世代がIT技術を活用したシステムや催しが体験できる場所として空軍総司令部の跡地をリノベーションしたもので、複数の企業が研究開発成果を展示しています。

中興保全は「TAF イノベーションベース」内にショールームを開設し、各種の先進的なサービスを紹介しているほか、複数のセキュリティサービスにより「TAF イノベーションベース」全体のセキュリティも担っています。

今回のデモでは、「セコムドローン」の「侵入監視サービス」と「巡回監視サービス」を実施し、WCIT 2017来場者にセコムの技術力をアピールしました。

これからも、こうした取り組みを通じて、海外においても「セコムブランド」の一層の浸透を目指していきます。

「セコム気球」が海外で初運用 ミャンマーの「世界華商大会」のセキュリティを提供

セコムグループのミャンマーセコム(株)は9月、ミャンマーのヤンゴン市で開催された「第14回世界華商大会」で「セコム気球」や常駐警備、仮設監視カメラなどのセキュリティを提供しました。

「世界華商大会」は1991年に創設され、世界中で活躍する華商と開催国の財界・国民との交流に寄与することを目的に2年ごとに開催される会議です。会議では開催国の元首クラスのスピーチなどで世界中の華商代表を歓迎します。

2013年12月に設立されたミャンマーセコムは、同国初となるオンライン・セキュリティシステムをはじめ、安全機器や常駐警備のトータルセキュリティをヤンゴン市内およびヤンゴン近郊の



海外初の実運用となった「セコム気球」

ティラワ経済特別区において提供しています。

今回の「世界華商大会」では、防犯用途としてミャンマー国内初、そしてセコムグループとしても海外初の実運用となる「セコム気球」を使用して上空からの警戒を行うとともに、地上の常駐警備、仮設監視カメラと連携し、「安全・安心」な大会の運営に貢献しました。

これからも、ミャンマーセコムは、セコムグループ独自の技術力・開発力を活かしたセキュリティシステムにより、ミャンマー国内に「安全・安心」を提供していきます。

ITを活用したサービスの開発・提供が評価 「攻めのIT経営銘柄2017」に選定

セコムは5月、経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「攻めのIT経営銘柄2017」に選ばれました。

「攻めのIT経営銘柄」は、東京証券取引所の上場会社の中から、中長期的な企業価値の向上や競争力の強化といった観点から経営革新、収益水準・生産性の向上をもたらす積極的なITの利活用に取り組んでいる企業を、業種区分ごとに選定して公表するものです。2015年に創設され今回で3回目を迎えますが、セコムは昨年、サービス業の中で初めて選ばれたのに続き、2年連続の選定となりました。

セコムでは、「セコムの行う社会サービスシステムは、高度な技術に立脚した革新的最良のものでなければならない」という理念のもと、サービスの創出や事業展開をしていくうえで積極的にITの活用に取り組んでいます。

今回の選定では、日本初となるリストバンド型の健康管理・救急対応サービス「セコム・マイドクターウォッチ」の開発や、高精度な3次元立体画像で警備計画の立案を支援する「セコム3Dセキュリティプランニング」の提供、「セコム オープンラボ」による社外との協働の促進などが評価されました。

これからも、ITを活用したセコムならではの革新的なサービスの開発・提供を通し、「安全・安心・快適・便利」な社会の実現を目指していきます。



「CSRレポート2017」を公開 事業を通じて実践するセコムのCSRを紹介

セコムは10月、CSR（企業の社会的責任）への取り組みや考え方をまとめた「CSRレポート2017」をセコムのウェブサイト上に公開しました。

本レポートでは、セコムのCSRを「特集」「戦略的CSR」「基盤的CSR」という3つの切り口からまとめ、すべてのステークホルダーの皆様にご報告することを目的としています。

「特集」では、5月に発表した「セコムグループ2030年ビジョン」のほか、被災地支援や消防団活動への協力といった支援、スポーツ競技の振興に向けた支援などを紹介。さらに、「人財」の多様性（ダイバーシティ）を受け入れて認め合い、あらゆる社員が能力を発揮できる組織（インクルージョン）としていくため10月に行った「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」についても取り上げています。

また、「戦略的CSR」では、社会課題の解決に向けた「あんしんプラットフォーム」構想に基づくセコムグループの取り組みを、「基盤的CSR」では、「コンプライアンス」や「高品質なサービス・商品提供」などへの取り組みを「お客様」「地域・社会」「地球環境」「社員」「コーポレート・ガバナンス」の5つの項目にまとめて紹介しています。

「企業と社会が共に持続的に発展することが重要である」との考え方のもと、事業を通じたCSRを実践するセコムの取り組みをぜひご覧ください。



セコムのCSRへの取り組みや考え方をまとめた「CSRレポート2017」

日本国内最高峰のメジャートーナメント 3大ナショナルオープンに協賛

セコムは、2017年から3年間、日本最高峰のナショナルオープンと呼ばれる日本オープンゴルフ選手権、日本女子オープンゴルフ選手権、日本シニアオープンゴルフ選手権の3大会に協賛することを決定しました。

日本ゴルフ協会が主催するこの3大ナショナルオープンは、トッププロとトップアマチュアが参加し、その年の「ゴルフ日本一」を決めるゴルフ選手権です。

セコムは日本3大ナショナルオープンゴルフの特別協賛企業としてマスターズボードやキャリングボード、ティーグラウンドなど会場の各所にロゴや看板を掲出します。

さらに、大会の「安全・安心」な開催・運営を支援するため、セコムの常駐警備員がクラブハウスをはじめとする会場の主要エリアの警備を行います。

セコムは、これまでも陸上長距離競技、ラグビー、セーリング、馬術などに協賛し、スポーツ競技の振興に努めるとともに、大会警備を担当し「安全・安心」な大会運営を支援してきました。



日本最高峰のゴルフ選手権に協賛

今回、オリンピック種目にも採用されたゴルフに新たに協賛することで、一層のスポーツムーブメント醸成に寄与します。

「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」に オフィシャルスポンサーとして協賛

セコムは10月、「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」にオフィシャルスポンサー（トータルセキュリティサービス）として協賛することを決定しました。

「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」は2019年9月20日から11月2日まで日本の12都市で開催されます。第9回目を迎えるラグビー界最高峰の世界大会となり、アジアでの開催は初となります。

セコムでは、ラグビーのひたむきに前へ突き進む競技性が、創業以来、目標に向かって進化し続けてきたセコムの企業風土に合致しており、「前に進み続けるセコム」にふさわしいものであると考えています。

現在は、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会に協賛し、



ラグビーワールドカップ2019日本大会ロゴ
The Rugby World Cup 2019 logo™
©Rugby World Cup Limited 2015. All rights reserved.

女子日本代表（15人制・セブンズ）、男子日本代表（15人制・セブンズ）の活動を支援。さらに、世界最高峰のリーグ「スーパーラグビー」に挑戦する日本チーム「サンウルブズ」についてもオフィシャルスポンサーとして協賛し、国内のラグビーカテゴリー全体を包括的に支える体制を構築しています。

また、1985年から男子の社会人ラグビー部「セコムラガッツ」を有し、活動の支援を行っています。

今後は、セコムがこれまで培ってきたセキュリティのノウハウを最大限に活用し、「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」の運営を支援していきます。

世界でも有数の経済成長を遂げるインドネシアで セキュリティ市場のさらなる開拓を目指す

セコムグループは、セキュリティをはじめ、防災、メディカル、地理情報サービス、情報通信事業を海外に展開。現在20の国と地域で「安全・安心」を提供しています。

● オンライン・セキュリティシステムから テロ対策セキュリティまで幅広く提供

人口世界第4位の2億5千万人を擁し、経済成長著しいインドネシア。GDP(国内総生産)は東南アジア地域で最大と、世界の中でも有望な市場として注目を集めています。

セコムがインドネシアに進出したのは1994年。同年7月にセコムインドプラタマ(株)(現・セコムインドネシア(株))を設立し、インドネシア初のオンライン・セキュリティシステムの提供を開始しました。

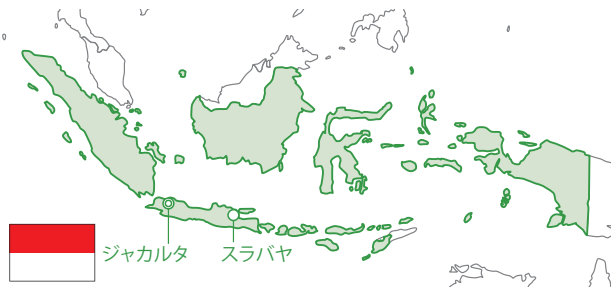
現在は、首都ジャカルタのあるジャワ島西部の7都市と東部最大の都市スラバヤを中心に、質の高いサービスを提供。現地の犯罪情勢に合わせ、豊富な経験をもとに企業活動を妨げる内部犯罪に対するセキュリティコンサルティングサービスも提供し、高い評価を得ています。

さらに近年のテロ事件の発生を受け、ニーズの高まるテロ対策セキュリティについてもいち早く着手し、空港、中央

銀行、大使館、高級ホテル、コンドミニアム、大型商業施設などにセキュリティ機器などを導入しています。



セコムインドネシアの緊急対応員



● 徹底した教育と研修で 高品質な常駐警備サービスを提供

また、2001年に現地の警察財団との合併で設立したセコムバヤンカラ(株)では、常駐警備員への徹底した教育と研



セコムバヤンカラの常駐警備員

修による高品質な常駐警備サービスを提供。現地企業のほか、日本総領事館や日本人学校、インドネシアに進出する多くの日系製造業・金融機関などにご利用いただいています。

さらに、セコムインドネシアのオンライン・セキュリティシステムやセキュリティコンサルティングサービスと連携した常駐警備サービスを提供しており、好評をいただいています。

今後も両社で力を合わせ、インドネシアに「安全・安心」を提供していきます。

救急対応だけでなく“健康”もセコムする 「セコム・マイドクターウォッチ」

時代や社会の変化を先読みして、社会に必要なサービスを創出するセコムグループ。
今回は、セキュリティシステムの開発を担う開発センターが生み出した
新サービス「セコム・マイドクターウォッチ」をご紹介します。



開発センター
ホームシステム・メディ
カルグループ統括担当
マネージャー 武井 弘

● サービスの特長を教えてください。

リストバンド型のウェアラブル端末を使い、日常生活における健康管理と、万が一の救急対応サービスを一体にする



健康管理と救急対応サービスを一体で提供

ことで、「あんしんプラットフォーム」構想にもある“いつでも、どこでも”“切れ目のない”安心を提供できることです。

健康管理では、歩数や消費カロリーなど活動量の計測や、(株)日立製作

所との提携により実現したスマートフォン向けの健康アプリを使い、ヘルスケア情報の提供を行います。また救急対応サービスでは、急病時に端末のボタンを押すことで、セコムに救急通報できるほか、突然意識を失って転倒したり、身体の動きを一定時間検出できない場合には、ボタン操作なしでセコムに自動で救急通報します。

● 開発の背景を教えてください。

セコムは、1981年に日本初のホームセキュリティを発売し、その翌年には同じく日本初の救急通報システム「マイドクター」の提供を開始するなど、以前から救急通

報の重要性を認識し、サービス化してきました。

さらに近年では、超高齢社会を迎え健康増進への意識がより高まったことから、防犯だけでなく健康への不安も解決する新しいサービスが必要になると考えました。

● 開発にあたり工夫したことはありますか。

機器を身体に直接着けていただくサービスはセコムでは初めてでしたが、販売開始前にモニター調査を実施し、サービスをご利用いただいたお客様から感想や各種データをご提供いただき、直前まで品質向上に努めました。

こうしたことができるのは、全国の拠点でお客様と直に接し、生の声を聞くことができるセコムならではの強みであり、開発にも活かされています。

● 今後の取り組みについて教えてください。

例えば、「セコム・マイドクターウォッチ」を経由して体重計や血圧計などの情報をデータセンターなどに集約し、解析できるようにすれば、病気の予兆検知につながられます。このように「セコム・マイドクターウォッチ」をIoTデバイスとして活用し、さまざまなデータを取り込めるようにすることで、新しいサービスを生み出していきたいです。

ご要望や心配事をお伺いする窓口となり お客様満足度のさらなる向上を目指す

セコムのセキュリティシステムは、安全のプロによるサービスに支えられています。
今回は、サービス品質の向上のためお客様訪問を専門に担当
お客様満足度促進担当をご紹介します。



神奈川県本部青葉台支社駐在
主任 中村友絵

● お客様満足度促進担当の役割を教えてください。

お客様を定期的に訪問して、ご要望や身の回りで心配事などがなくお伺いし、安心してお過ごしいただけるよう解決に努めています。また、企業のお客様にはセキュリティのプロの視点からビジネス上のリスクや課題への対応策の提案もさせていただき、サービス満足度のさらなる向上につなげています。

● お客様からはどういった声をいただきますか。

ご契約から年数が経っていくにつれ、お客様が求めるものも変わっていきます。ホームセキュリティのお客様ですと、ご高齢の方の場合、セキュリティだけでなく健康面の不安や家事



お客様を定期的に訪問し
ご要望や心配事をお伺いする

の負担を感じるようになったなど、実にさまざまなお相談をいただきます。

そうしたご要望に耳を傾け、例えば健康面の不安には「マイドクター」などの

救急通報システム、家事のお悩みなら「セコム・ホームサービス」など、お客様のためにセコムとして何ができるかを考え、解決策を提案しています。

● 仕事のやりがいはどういったところにありますか。

ホームセキュリティを導入後、年月を重ねるうちにあまり防犯操作をされなくなったお客様がいらっしゃったのですが、訪問を重ね、ご要望をお伺いしながら改善策を提案していった結果、防犯機能を積極的にご利用いただけるようになりました。

このように、私の訪問によってセコムのサービスの価値をあらためて感じていただけたことは非常にうれしいですし、やりがいになります。

● 今後の目標を教えてください。

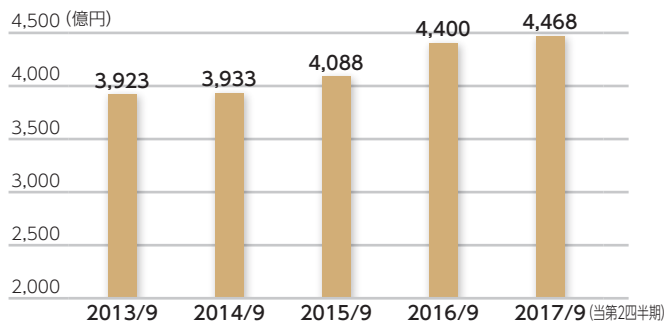
サービス品質を向上させていくためには、お客様満足度促進担当だけでなく、事業所にいる各部門が協力していくことが必要になります。

お客様のことで何か気づいたことがあれば互いに情報共有し、連携を取りながら迅速な対応につなげることで、お客様の満足度をさらに向上させていきたいです。

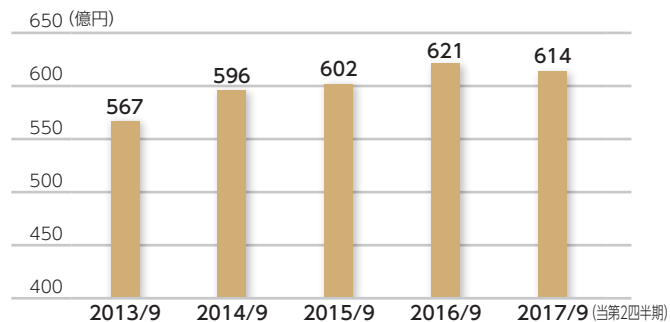
Review

連結決算 業績ハイライト — 第2四半期累計

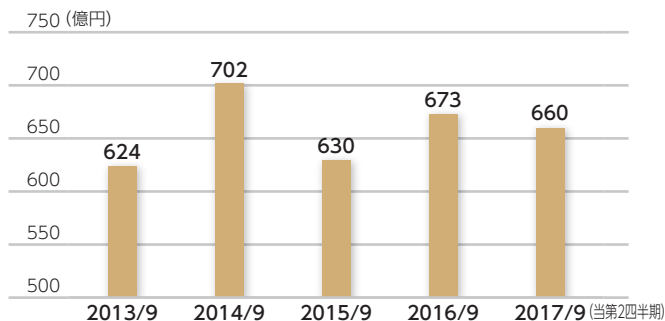
● 売上高



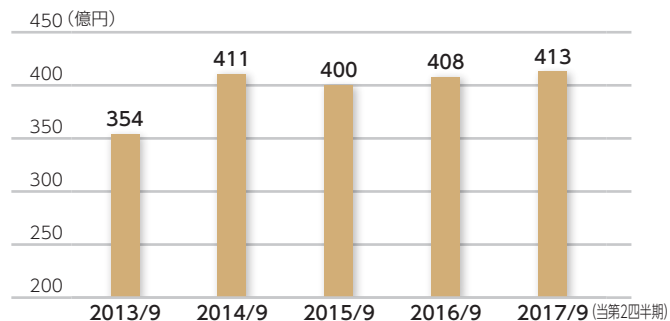
● 営業利益



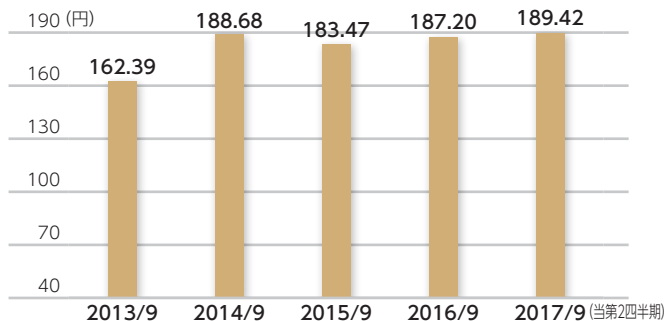
● 経常利益



● 親会社株主に帰属する四半期純利益

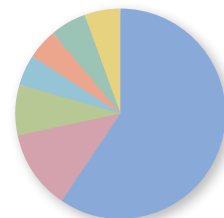


● 1株当たり四半期純利益



● 事業別売上高内訳 2017/9 (当第2四半期)

事業	売上高 (億円)	割合 (%)
● セキュリティサービス事業	2,666	59.7%
● 防災事業	539	12.1%
● メディカルサービス事業	351	7.9%
● 保険事業	209	4.7%
● 地理情報サービス事業	203	4.5%
● 情報通信事業	256	5.7%
● 不動産・その他の事業	242	5.4%



連結貸借対照表(要旨) — 第2四半期末

2017年9月30日現在

(単位: 億円) *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部	流動資産	7,654
	現金及び預金	3,191
	現金護送業務用現金及び預金	1,310
	受取手形及び売掛金	874
	未収契約料	341
	有価証券	252
	リース債権及びリース投資資産	429
	たな卸資産	409
	販売用不動産	409
	繰延税金資産	158
	短期貸付金	56
	その他	220
	固定資産	8,701
	有形固定資産	3,699
	建物及び構築物	1,498
	警報機器及び設備	707
	土地	1,136
	その他	356
	無形固定資産	1,090
	投資その他の資産	3,911
投資有価証券	2,731	
長期貸付金	370	
退職給付に係る資産	348	
繰延税金資産	99	
その他	361	
繰延資産	0	
資産合計	16,355	

負債の部	流動負債	3,255	
	支払手形及び買掛金	370	
	短期借入金	364	
	一年以内償還予定社債	10	
	未払金	327	
	未払法人税等	222	
	現金護送業務用預り金	1,105	
	前受契約料	312	
	その他	541	
	固定負債	2,734	
	社債	55	
	長期借入金	100	
	預り保証金	335	
	退職給付に係る負債	220	
	保険契約準備金	1,683	
	その他	339	
	負債合計	5,989	
	純資産の部	株主資本	8,954
		資本金	663
		資本剰余金	803
利益剰余金		8,224	
自己株式		△737	
その他の包括利益累計額		204	
非支配株主持分		1,205	
純資産合計		10,365	
負債純資産合計		16,355	

連結損益計算書(要旨) — 第2四半期累計

(単位：億円) *注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当第2四半期累計 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	前第2四半期累計 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)	増減率
売上高	4,468	4,400	1.5%
売上原価	2,973	2,918	
売上総利益	1,495	1,482	0.9%
販売費及び一般管理費	880	860	
営業利益	614	621	△1.1%
営業外収益	62	83	
営業外費用	16	31	
経常利益	660	673	△2.0%
特別利益	5	1	
特別損失	3	7	
税金等調整前四半期純利益	661	667	△0.9%
法人税、住民税及び事業税	282	210	
法人税等調整額	△73	10	
四半期純利益	452	446	1.4%
非支配株主に帰属する四半期純利益	39	37	
親会社株主に帰属する四半期純利益	413	408	1.2%

● 営業の概況(連結)

当第2四半期連結累計期間における売上高は4,468億円(前年同期比1.5%増)、営業利益は614億円(前年同期比1.1%減)、経常利益は660億円(前年同期比2.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は413億円(前年同期比1.2%増)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の売上高、親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高を達成することができました。

〈参考〉

- 連結子会社数 177社
- 持分法適用関連会社数 18社
- 1株当たり四半期純利益 189円42銭

Profile

● 会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100

Fax: 03-5775-8902

● 資本金 66,385百万円

● 社員数(グループ総数)

58,596名(2017年3月31日現在)

● 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創立。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年には、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始。そのほか、常駐警備サービスや現金護送サービスの提供、各種安全商品などの販売も行い、社会に「安全・安心」を提供しています。

今日、セコムグループは、社会にとって「安全・安心・快適・便利」なサービスを新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指し、セキュリティに加え、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報通信、不動産の7つの事業を展開しています。

取締役(2017年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
代表取締役社長	中山泰男
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	中山潤三
常務取締役	尾関一郎
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司
取締役(社外)	廣瀬篁治*
取締役(社外)	河野博文*
取締役(社外)	渡邊 元*

監査役(2017年11月30日現在)

監査役(常勤)	伊東孝之
監査役(常勤)	小松良平
監査役(社外)	加藤秀樹*
監査役(社外)	安田 信*
監査役(社外)	横溝雅夫*

*印の6名を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

執行体制(2017年11月30日現在)

● 取締役

代表取締役社長	中山泰男
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	中山潤三
常務取締役	尾関一郎
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司

● 執行役員

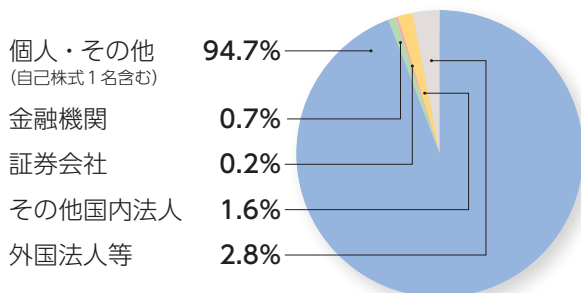
常務執行役員	古川 顕一
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	吉村輝壽
常務執行役員	森下秀生
常務執行役員	水野都飽
常務執行役員	石村昇吉
常務執行役員	新井啓太郎
執行役員	杉本陽一
執行役員	福満純幸
執行役員	進藤健輔
執行役員	桑原靖文
執行役員	福岡規行
執行役員	赤木 猛
執行役員	佐藤貞宏
執行役員	上田 理
執行役員	山中善紀
執行役員	長尾誠也
執行役員	植松則行
執行役員	永井 修
執行役員	小松 淳
執行役員	御供和弘
執行役員	千田岳彦
執行役員	中田貴士

Information

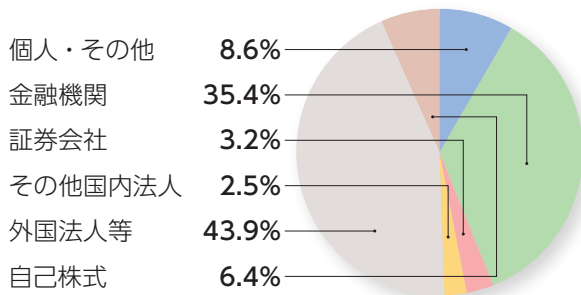
● 株式の状況 (2017年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000 株
2. 発行済株式の総数 233,290,441 株
3. 単元株式数 100 株
4. 株主数 24,968 名
5. 所有者別状況

● 株主数比率



● 株式数比率



表紙写真のご説明

〈セコム飛行船〉 民間防犯用の飛行船として世界で初めて実用化。搭載したカメラで上空から監視、広域での異常の早期発見を可能にします。〈オンサイトセンター〉 車両型の移動式モニタリング拠点で、被災地支援や大規模イベント警備において機動力を活かしたリアルタイムな情報収集・情報提供・現場指揮を可能にします。



● 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
- 株主優待制度 毎年3月31日現在における当社株式100株以上保有の株主様に、当社グループで利用可能な優待券を贈呈。
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<https://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

● 株式に関する各種お手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… 口座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵送先
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式のお手続きに関するお問い合わせ
☎ 0120-232-711
[平日9:00~17:00]



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

セコム コーポレート広報部 757-17-12-271